

③<急性期病院との密接な連携>

★外来

①外来で整形を受診し、診断結果により急性期病院へ搬送となったケース

高齢者が屋外で転倒し、骨盤付近に強い痛みがあったため当院の整形外科を受診。レントゲン撮影の結果、骨盤骨折が認められ骨折箇所の周辺に、服用している薬の影響と思われる広範囲の出血を確認。骨盤骨折の手術は当院での対応が困難であったため、緊急性である事も含めご本人、家族に説明のうえ手術が可能な近隣の急性期病院へ搬送依頼をおこなった。

②救急車で当院へ運ばれてきたが、診察・検査後（レントゲン）を行った結果、専門医の診察が必要と判断したため急性期病院へ転送となったケース

体育の授業中にジャンプをしようと踏み込んだ際に、左ひざ付近からボキッと音がして痛みが走ったため救急車で当院に搬送。整形外科医が診察を担当し、レントゲン・CT 撮影等の検査を行い、該当部分に固定する骨折治療を行った。検査結果を受け成長期に見られる骨折症状であったため、膝の専門医がいる急性期病院でより詳しい診察・治療が必要と判断し、搬送依頼をおこなった。

★入院

整形外科疾患で新生病院入院中に、消化器系疾患による状態悪化となり急性期病院へ転院。転院後に当院へ再入院のケース

数週間に渡る関節痛があり、整形外科を受診し経過観察が必要であったため一般病棟（地域包括ケア病床）へ入院。入院中に消化器疾患を併発し、同疾患への当院での治療が難しい状況と判断し急性期病院へ転院。転院後の評価にて、患者さんの年齢を考慮して保存的治療を選択することになった。急性期病院での話し合いの結果、ご家族が医療相談員と調整を図り、看取りを含めた治療を目的とし当院へ再入院された。